

第3次 東近江市地域福祉活動計画

「東近江市地域福祉活動計画」は、東近江市に暮らす高齢者や障がい者、子どもをはじめ、すべての住民が支え合い、安心して暮らし続けることができる「福祉のまちづくり」を進めていくための計画です。

「地区住民福祉活動計画」「地域福祉推進計画」「基盤強化計画」の3つの計画で構成しています。

地区住民福祉活動計画

住民がすすめる福祉のまちづくりの目標であり、活動していくための計画。

市内14地区でそれぞれに、福祉活動やまちづくりに携わる住民のみなさんと策定。

住民の「こんな地域にしたい」という思いや、「地域らしさ」をカタチにしたもの。

地域福祉推進計画

東近江市社会福祉協議会が住民や様々な団体・関係機関とともに、市域で地域福祉活動を推進していくための計画。

スローガン

つながりと地域愛でつくる
ふだんのくらしのしあわせ

目標① ふだんのくらしの場で一人ひとりが
誰かとつながれる機会や場づくり

目標② 困っている人をほっとかない
支え合える地域づくり

目標③ 一人ひとりを知り、理解し合うための福祉共育

目標④ 困りごとの解決に向けたネットワークの構築

目標⑤ 命と暮らしを支える社協の相談支援体制の強化

目標⑥ 福祉のまちづくりをひろげる情報発信

目標⑦ 福祉のまちづくりを推進するためのサポート

基盤強化計画

地域福祉を推進するために必要な、東近江市社会福祉協議会の組織や体制のあり方を示し、その基盤の強化をすすめるための計画。

〈五個荘地区住民福祉活動計画〉

策定：五個荘地区住民福祉会議

編集・発行：社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会

(Tel 0748-20-0555 IP 0505-801-1125 Fax 0748-20-0535)

第3次 五個荘地区住民福祉活動計画

だれもが人財

みんなで支えあうまち 五個荘

令和4年度～令和8年度



五個荘地区住民福祉会議
社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会

めざすところ

“だれもが住み慣れた地域で尊厳と希望をもって自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる”そんな願いを叶えるため、みんなが普段の暮らしの中で、ちょっとずつできそうなことを「第3次五個荘地区住民福祉活動計画」として策定いたしました。

私たちが自分のこととして、できることから一歩ずつ、つながり、支え、紡ぎ合いながら、自分らしく輝き、暮らすことができる、そんな「五個荘」をめざし、みなさん一緒に行動していきましょう

第3次五個荘地区住民福祉活動計画について

これまで、第1次計画(H24～H28)、第2次計画(H29～R3)が策定され、少しずつ五個荘地区の住みよい福祉のまちづくりが推進されてきました。

令和4年度からは「第3次五個荘地区住民福祉活動計画」が歩み出します。

第3次計画でも、第1次計画からのスローガン「だれもが人財 みんなで支えあうまち 五個荘」を引継ぎました。また、3つの目標「人財を育もう」「場を創ろう」「しくみを創ろう」も継承し、15項目ある方針については、親しみやすく分かりやすい表現を心がけています。

集まった声を計画に！

得意なことを活かしてみたい

世代を越えた集まりがほしい

心の力を取り除く

まあええやん、気持ちに余裕をもって

おせっかいな人を増やす

六心の訓を伝えたい

多様性を尊重する

気軽に相談できる場がほしい

ふだんのつながりが大切

小さく集まれる場所がほしい

気軽に助け、助けてといえる地域を

自治会での見守りや居場所づくりを

無理のないボランティア活動がしたい

子どもたちには多くの体験ができるよう

※人財…人は財(たから・尊い)という意味から「人財」という表現を用いています

I

人財を育もう

1. 日ごろの声かけ、あいさつ運動をすすめよう
2. みんなが助け、助けられる人になろう
3. 多様性を認め合う学びをすすめよう
4. 「ちょっとお手伝い」の「輪」を広げよう
5. 「六心の訓」の普及・啓発をすすめよう

六心の訓 (ろくしんのおしえ)

はい……………素直な心 私が出します……奉仕の心
すみません……反省の心 どうぞ……………互譲の心
ありがとう……感謝の心 おかげさまで……謙虚な心

II

場を創ろう

1. 気軽に集える居場所づくりをすすめよう
2. 情報の交換・共有の場づくりをすすめよう
3. 赤ちゃんからお年寄りまで交流できる場づくりをすすめよう
4. 子どもや若い世代が地域で活動できる場づくりをすすめよう
5. 誰もが参加できる場づくりをすすめよう

III

しくみを創ろう

1. 得意なことを地域に活かせるしくみを創ろう
2. 住民同士の助け合いのしくみを充実させよう
3. 自治会福祉委員会の活動を推進しよう
4. 「互近助(ごきんじょ)」で災害時に助け合うしくみづくりをすすめよう
5. 「いのちのボタン」で緊急時への備えをしよう

※「互近助」…向こう三軒両隣で助け合うこと